

はくさん

スマホ君

第109号 H31年春号
伊豆市 法住寺 発行

電車内の若者はジューツとスマホ、最近では年配の方々もスマホが多い。各自がそれぞれにスマホ、ますます個の時代になってきていることを思う。当初は馴染めなかったこうした光景もだんだん馴れてくる。

不思議だなあとと思うのは電波、マスメディアを受け取るだけでなく、個々のスマホが相互にやり取りできる、膨大な気の遠くなる様なハイテク、しかもまだまだ拡大変化している。私が子供の頃はラジオの時代だったが、思えばラジオに馴れ、テレビに馴れ、ハイテクに馴れ、それが当たり前になっている。それで

「寿命の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。
社会の皆さん ありがとうございます。
ご先祖さま、家族の皆さん

ありがとうございます。

合掌 合掌 合掌



紅梅 香し 2月下旬



もボーっと生活しているのだが、世の中がますますスピードをあげて変化していることは実感している。人口知能の発達に伴い

ロボットに支配されるとか、されないとか話題になるが、既にスマホというロボットが存在していることを思う。自分で操作しているのだが、スマホに支配され動かされているのかもしれない。車内の様子をみながらそんなことを思いながら車窓を眺めていた。もう「スマホ」と呼び捨てに出来ない程だ、敬意を込めて「スマホ君」。こ

うして徐々にロボットに馴れ、そして変化に馴れていくんだなあと考えた。それでも基本的には樂觀している。変化は人の生

活を便利に快適にしよう、楽しくしようという方向性を以っていると思っているから。

*

何より何がどんなに変化したとしても、天の三光(太陽、月、星)には変わりなく、人々を善くしよう善くしようと呼び続けてくれている。太陽は東から昇り輝き西に沈む、夜になれば月が出て星々の光も太古と変わらな

い。この三光を基にして生まれた日月燈明如来という仏さまが遙かな昔にいらして、何度も何度も気の遠くなるほどの年月に渡って生まれ変わり、ついに説かれた教えがある。法華経はその教えから始まっている。だから天の三光が輝きつづける限り法華経は活きた教えとなり続けると信じる。これからどんなに変化しようと呼ぶ教えがあり、南無妙法蓮華経とお唱えし精神の大黒柱を持てることは何ともありがたいことだ。

*

ところで先日新幹線の中で音楽を聴いてみた。イヤホンに耳をあてスマホで曲を流し始めたのだがどうも音が小さい、音量を上げていると車掌さんが声をかけてきた。検札かなど切符を探し始めると、「お客さん、音が

漏れていますよ!!」 ええ〜っ? 何とイヤホンの端子がキチンと入ってなくて音が漏れていたのだ。かくして何時ものようにボ〜っと車窓を眺めウトウト、やっぱりこれに限る。」でも「ボ〜っとしてんじゃねえ〜よ!!」とチコちゃんにおこられる〜かな?」

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日記より

今年の冬は、毎年足に出来る「しもやけ」の他に両手の「しもやけ」に悩まされた。思えば寒い日、日の当たらない中庭の掃除をしていた時、手袋が濡れてそのまま作業をしていたことが直接の原因だと思われる。反省しつつもともかく腫れて痛くて痒くて治らないのです。だからと云うか、やはり冬の寒さは苦手です。

*

ところが最近になって「冬には薄着で過ごし戸外の寒さを体験することが、翌夏の熱中症の危険が軽減されるなど、一年を通じてストレスに負けない心身をつくるものとなる」と聞き及び驚きました。

藤豆と白藪椿



何でも「寒さ」、「冷たさ」という刺激によつて体の中にストレスたんぱく質(HSP)というものが出来るそうで、それは寒さなどのストレスにさ

らされた体内で、その状況に適応しようとして作られるたんぱく質であり、傷んだ細胞の修復や免疫細胞の強化、ストレスに耐え得る心と体を養うなどの働きをするのだそうです。思いをめぐらすと私の周りの農家の方々を含め寒さの中で元気に何かしら動いている方々は、夏にもお元気な様子なのです。さらにはいつも穏やかでおおらかで明るい笑顔の方が多いことにも気づかれます。こうして特に意識しなくても理にかなった暮らしを当たり前のように実践されていることこそが、いわずもがな幸せになれる豊かな知恵の様に私には思われるのでした。

星祭り

1月末の日曜日、27日に恒例の星祭が行われました。



ちようどインフルエンザが流行つていたので無理のないように思っていたのですが120名を超える方々が参詣して下さいました。

今年も洋明



上人を導師に、
身延赤沢・妙
福寺 井出智
裕上人、三島・
本覚寺 望月
飲水上人、三
島・受法寺 瓜
島常泰上人、
宇佐美・朝善
寺 工藤堯顕

上人、川奈・蓮慶寺 田中龍海上人、そして
今年は三島・遠成寺 上田歆樹上人が久しぶ
り出座して下さいました。

晴れ晴れとした穏やかな天候に恵まれ、早
朝より法華経読誦の声が響き渡り、何とも云
えず厳かで清浄、諸天善神の来迎を実感。水
行でお上人方が身を清め、本堂内でご宝前を
清めてご本尊様、諸天善神をお迎えし、皆さ
んをご祈祷、善き運勢を祈りました。

護持会役員改選

護持会役員・世話人さんの改選を現職世話
人さん中心に各地区にお願い致しました。

2019 年 4 月 ~ 2022 年 3 月まで 3 年間、宜しく
お願い致します。

新世話人(敬称略)

〔元村〕 1 班 山崎正行、 2,3 班 井本和男、

4 班 飯田昌之、

〔小川〕 室野和義、

〔清水〕 1 班 山下武志、 2 班 加藤正喜、

3 班 山下悦子、

〔西〕 1 班 山田邦光、 2 班 森野智喜

年間行事

元旦の朝 4 月には大洋(寮生活)
は高2、采海は高校生になります



2 月 2 日

護持会役員
会が行われ
年間行事日
程を決めま
した。年間予
定表は別紙
にてご覧く
ださい。これ
に先立ち、役
員さんで第
1 墓地南斜

面の草刈りや雑木処理をして下さいました。

境内整備作業

3 月 10 日 元村 2,3 班 第 2 墓地 植樹

7 月 14 日 清水② 草刈り

9 月 15 日 元村 4 班 草刈り

12 月 今年はありません(隔年実施)

お会式 10 月 30 日(日)

トピックス

還暦後 投稿楽しみ 白寿逝く

先日叔母が亡くなりました。父の弟の連れ
合い、三島市受法寺の寺庭婦人でした。

叔母は 40 代の半ばで自動車免許を取っ
たのですが昭和 40 年代、その年代の家庭婦
人が免許を取るのには珍しい時代でした。住職
を支え寺庭としてご給仕しながら、PTA、民
生委員、保護司等々社会的な活動にも進んで
参加し様々な表彰も受け、この時代の女性の
パイオニアでした。

子供の頃は夏休みになると受法寺に遊び
に行ったものです。「よく来たね、さあ スイ
カを食べな」と笑顔で迎えてくれました。大
社のお祭りに出かけたたり花火をみたり、夜店
のヨーヨー、金魚すくい。田舎の少年にとっ
てワクワクな楽しく貴重な思い出です。

叔母は還暦すぎから朝日新聞川柳に投
稿し始め『以来、楽しみながら、折に触れ、
日々の生活の中で感じたままを投稿させて
戴いてまいりまして、いつの間にか月日が過
ぎ、卒寿を越えて四年が経ちました(叔母の
文章より)』94 歳まで 34 年間、投稿し掲載
され続けたのでした。99 歳人寿全う、今を
老いている身に元氣、意欲、そうしたものを
頂いたのです。

〔叔母の朝日川柳より〕

「流行に 少し遅れて 若さ着る」(67 歳)



洋明さんのおはなし

仕事 〴〵事に仕える〴〵

今年の星祭、皆さまのお力を頂戴し無事に修めることが出来ました。早朝よりお経を本当に気持ち良くあげさせて頂きました。不思議なことにお経中、仏天が「〴〵善哉善哉〴〵善いかな善いかな、気持ちがよい」とおっしゃって下さったように感じました。それを感じた時、本当に嬉しく何とも言えない喜びを感じたのです。有難うございました。

*

私たちは働いて日々の生活を営んでいます。時にその対価をお給料として受け取ります。ですから働くことは仕事をする事、つまり「働く」イコール「仕事」。しかし同じことをするにしても、「働く」と思うとエゴが顔をだし出来ないこともあります。これ

も「仕事」だと思ふと不思議と出来てしまうことってないでしょうか？ 働くとは「人が動く」と書きますから、動く人それぞれの感情が伴って当たり前。では仕事はどうでしょう。

仕事は「事に仕える」と書きます。この「仕」の字は、本来は仏さまや神さまにお仕えする時にのみ使える字なのです。つまり仕事とは、仏天が与えて下さった事にお仕えするという意味。僧侶は、お経が仕事とは言われたことがあります。そう言われても、お経をあげることが仕事と思うことにどこか違和感を持っていました。その意味を知ると確かにその通り納得。お経をあげ、掃除をし、感謝申し上げながら日々仏天に与えられたことにお仕えする仕事をしているのです。働くと思うと出来ないことも、仕事と思うと出来るのはそこにあるのでしょうか。そう考えると仕事はまさに修行。その事が、どれだけ大変であっても、嫌であっても、面倒であっても、辛くても、仏天がそれぞれの為に与えて下さった事、また見守って下さっている中で起こる事。その事が私たちの想定外の事でも、仏天に言わせれば想定内。だから出来る、だから

ら一切の無駄はない。

皆さんの「仕事」も同じだと思います。面倒と感じる時は尚更です。簡略化されることが多い今の世の中、じつは面倒な事ほど大切なことがあります。あえてその「事に仕える」ことで、必ず良き縁が生まれ、その縁を育てることになるでしょう。

*

先日、ある方から親の介護について相談を受けました。私も先代住職であった祖父の介護現場を多少は知っているつもりです。しかし話を聞いてみると、やはり察し切れない当事者にしか分からないことが沢山あります。その方は、話の最後に「これも仕事だから」と言われました。「仕事」本来の意味を知らなければ、親の介護を「仕事だから」と言っているの？と思ったことでしょう。しかし、「仕事」は、仏天に与えて頂いた「事に仕える」。どうぞしっかりと、親の介護という「事に仕える」を全うして頂きたいと祈るばかりです。

御志納金「一月〴〵二月」

小川 滑川 敏明殿 尊父葬儀砌

長泉町 遠藤 正幸殿 尊父七七忌日忌砌

お寺のホームページ

<http://juro.jp/>

検索↓「伊豆 法住寺」